

令和4年度 学校評価実施報告書

幼稚園名（中京もえぎ幼稚園）

教育目標 たくましく心豊かな子どもの育成 ～主体的に環境に関わり、好奇心・探求心豊かに夢中になって遊ぶ子どもの育成をめざして～	
年度末の最終評価	
自己評価	教育目標の達成状況, 次年度に向けた見直し 各学年の発達を踏まえながら、思いのままに体を動かし、心地よさや開放感を教師や友達と味わったり、挑戦することの面白さを感じたりするなどの様々な心の育ちを捉えることが出来た。そして、粘り強く取り組む力、自信等の非認知能力が教師や友達とのかかわりの中で育まれ、自己有用感につながっていく姿が見られていた。また、子どもの実態や保育を共有し合い、“ねがい”に応じた園環境をみんなで創ることで、子どもたちの体の動きが多様になり、主体的に意欲やめあてをもち遊ぶ姿へと変容が見られるようになった。そして、園内で自然と異年齢の遊びにふれる機会が増え、体を動かす遊びへの関心が広がったり、竹間公園の活用を積極的に取り入れることで子どもが思いきり体を動かして遊ぶことにもつながり、友達と夢中で遊びを楽しむ姿が見られた。その中で5歳児は学級や学年のみんなで思いを出し合い遊ぶことの楽しさを感じその中で自信をもち自分を発揮する姿が見られるように変容してきた。 次年度も教員間で連携し、子どもの姿をもとにさらなる教師の援助や園環境の充実を目指していきたい。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 次年度は、コロナ禍であった社会の状況が変化していくことが予想される。以前のやり方を様々に見直しながら、親子で育ちあう幼稚園教育がよりよくなるように支えていきたいと思っている。地域の子どもや保護者、幼稚園に支援できる場所は、積極的に学校運営協議会もえぎティンクルとして参画し協力していきたい。

学校関係者評価の評価日・評価者

	評価日	評価者
中間評価	令和4年10月21日(金)	学校運営協議会もえぎティンクル
最終評価	令和5年3月6日(月)	学校運営協議会もえぎティンクル

(1) 幼稚園教育（保育の改善・充実）について

具体的な取組

- ・ 体を動かして遊ぶ姿を“ねがい”に着目して考察し、環境構成や教師の援助について動画を活用したエピソードや研究保育から学ぶ。
- ・ 体を動かして遊ぶことを楽しめるように、園庭や園舎の環境について、マップを活用しながら定期的に協議し、整備する。
- ・ のびのびと体を動かして遊べるように近隣環境（竹間公園など）を保育に活用する。
- ・ 研究の成果や過程を内外に定期的に発信したり、研究を発表する機会をもったりする。

（取組結果を検証する）各種指標

- ・ 子どもの姿の変容や日々の保育実践
- ・ 園庭や園舎の環境マップの作成と変遷状況
- ・ 近隣環境の活用状況
- ・ 研究成果や過程での発信状況
- ・ アンケート「お子さんは、体を動かすことが好きですか」
「お子さんは、体力がついてきたと思いますか」

中間評価

各種指標結果

- ・ 体を動かして遊ぶ子どもの姿のねがいに着目し、動画も活用したエピソードや研究保育から各学年でのキーワードや教師の援助や環境構成について学ぶことができた。
- ・ 園庭や園舎の環境については、子どもの姿から定期的に教員間で話し合う時間を捻出し、学年を超えた教員間の思いを共有し園環境を創り出すことができた。教員間で思いを共有することの重要性を改めて確認できた。
- ・ 近隣環境の活用では、特に竹間公園の日常的な活用について見直すことができ広い場で思い切り体を動かす時間が増加し、子どもの体の動きにも変化がみられるようになった。また、京都御苑への園外保育については親子での活動にも活用することができた。
- ・ アンケート「お子さんは、体を動かすことが好きですか」大変そう思う・そう思う回答93%
「お子さんは、体力がついてきたと思いますか」大変そう思う・そう思う回答87%

自己評価

分析（成果と課題）

- ・ 体を動かして遊ぶことにおいて3歳児は、先生とのかかわりが子どものねがいや園環境において大事なことがわかった。4歳児は、偶然や友達、教師がきっかけとなり明確な願いをもつようになり実現したい意図的なねがいをもって体を動かす遊びに取り組む中で自分とじっくり向き合うことがわかった。また、イメージの力も体を動かす原動力になっている場面が多く見られた。5歳児は、体を動かして遊ぶうえで友達の存在がねがいを生み出したり、ねがいをもってじっくりと体を動かすことに取り組んだりしていくうえで大事なものであることがわかった。
- ・ 園内の環境については、定期的に教員間で時間を捻出し思いを伝え合うことで学年を超え、園全体の環境を創造していくことができた。
- ・ 近隣環境に活用では、特に日常的に竹間公園の活用に取り組むことができ、広い場で思い切り体を動かしたり全力で走ったり、子どもたちの体を動かして遊ぶ活動量が増えた。
- ・ 保護者アンケートの結果からみえてきたこととして、子どもは体を動かす遊びは好きで体力はついてきたと感じておられることは見えてきた。しかし、家庭で意識して体を動かす遊びを取り入れていま

学 校 関 係 者 評 価	すかという項目は、他の項目に比べて低い評価結果であった。
	<div>分析を踏まえた取組の改善</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 引き続き、園舎や園庭の環境についてマップを活用しながら定期的に話合う時間をつくっていく。 ・ 今後も日常的な竹間公園の活用に取り組めるよう園内体制を整える。 ・ 保護者アンケート結果から見えてきた課題から、家庭での遊びを紹介するなど、保護者への発信や啓発を工夫していきたい。 ・ さらに園環境の充実に向け取り組んでいくとともに、取り組んできた成果を発信していきたい。
	<div>(最終評価に向けた)取組の改善を検証する各種指標</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもの姿の変容や日々の保育実践 ・ 園庭や園舎の環境マップの作成と変遷状況 ・ 近隣環境の活用状況 ・ 研究成果や過程での発信状況 ・ アンケート「お子さんは、体を動かすことが好きですか」 「お子さんは、体力がついてきたと思いますか」
	<div>学校関係者による意見・支援策</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 運動会で、実際の子どもの姿をみたが、子どもたちの意欲が伝わってき、子どもの育ちを感じた。 ・ 研究で取り組んできた取組や成果を、ぜひ発信してほしい。

最終評価

自 己 評 価	<div>(中間評価時に設定した)各種指標結果</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 後期についても、体を動かして遊ぶ子どもの姿のねがいに着目し、動画も活用したエピソードや研究保育から各学年でのキーワードや教師の援助や環境構成について学ぶことができた。 ・ 園庭や園舎の環境については、前期に引き続き子どもの姿から定期的に教員間で話合う時間を捻出し、園環境を創り出すことができた。 ・ 近隣環境の活用では、特に竹間公園の日常的な活用ができ、保育に活かせた。 ・ アンケート「お子さんは、体を動かすことが好きですか」大変そう思う・そう思う回答95% 「お子さんは、体力がついてきたと思いますか」大変そう思う・そう思う回答91%
	<div>分析(成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもの遊びの姿から捉えた動き、子どもの“ねがい”、教師の願い、“ねがい”の「もと」となる園環境、“ねがい”から広がる園環境、遊びを通して育まれたもの、考察の要点なるエピソードのキーワードを加えた「まとめ表」を作成することができ、様々なエピソードを共通の視点で考察することが出来た。 ・ 研究を通して一つの遊びの中に多様な動きがあることが分かった。遊びの中で一つの動きを連続させたり、様々な動きを組み合わせたりして、より複雑な動きを楽しみ、遊びを発展させていくことが分かった。遊びの中での動きに着目し、どのようなことに楽しさを感じているのか、を読み取ることで幼児理解が深まっていくことが捉えられた。 ・ 各学年の発達を踏まえながら、3歳児は「先生」、4歳児は「自分」、5歳児は「友達」という園環境を創造していくための大事なポイントを導き出すことが出来た。 ・ アンケート回答からは、どちらの回答結果も前期より上がっていた。
	<div>分析を踏まえた取組の改善</div> <p>今年度学んだ成果を保育の中で活かしていくとともに、園環境を創造していくポイントをもとに様々な</p>

	子どもの実態に合わせて心と体を動かして遊ぶことを楽しめる園環境のさらなる充実を目指していきたい。
学校関係者評価	<div>学校関係者による意見・支援策</div> <p>家庭でも親子で体を動かして遊べるような具体的な遊びの提案や家庭教育講座なども園が発信し取り組んでいけるだろう。</p> <p>今後も子どもたちのために近隣の環境である地域を活用して行ってほしい。</p>

(2) 幼小連携・接続に関して

<div>具体的な取組</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 幼児の実態や幼児期の終わりまでに育ってほしい姿、及び小学校の児童の実態を地域の小学校教員と共有し、学びや育ちが繋がっていくように連携していく。 ・ 接続期には、幼児の発達を考慮した上で接続期カリキュラムを意識して保育を組み立てていく。 ・ 幼稚園の取組を近隣の保幼小に発信し伝えていくとともに、交流や連携の機会をもち、子どもの姿を共有して、学びや育ちが繋がっていくようにする。 	
<div>(取組結果を検証する) 各種指標</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 幼稚園教員と小学校教員による互いの保育参観や授業参観を行い、子どもの学びや育ちについて互いの教育への理解を深める。 ・ 接続期カリキュラムの検証・改善状況 ・ 近隣の保育施設や小学校への発信状況 ・ アンケート「小学校との連携や交流をすることは子どもの育ちにつながっていますか」 	

中間評価

<div>各種指標結果</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業や保育を互いに参観し合い、小学校教員との合同研修会をもつことができた。 ・ 接続期カリキュラムについては小学校教員とともに取り組んでいるところである。 ・ 近隣の保育施設への発信状況については、京都市学校保健会 健康教育推進事業 健康教育推進校である自園の研究報告会について案内し発信することができた。 ・ アンケート「小学校との連携や交流をすることは子どもの育ちにつながっていますか」大変そう思う・そう思う回答92% 	
自己評価	<div>分析(成果と課題)</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業参観や保育参観をし合うことができた。また、参観後の研究協議にも参加し、教育内容や子どもの育ちについてともに考え学び合うことができた。後期は、京都市学校保健会健康教育推進事業 健康教育推進校での幼稚園の取組から幼稚園教育の発信をしていきたい。 ・ 子ども同士の交流については後期に向けて計画を進めている。
	<div>分析を踏まえた取組の改善</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 架け橋プログラムの取組も地域の中でリードしていき、子ども同士の交流については、今後後期に計画しているので進めていくとともに、幼保小連携での取組を通して子どもの育ちについて保護者に発信する。 ・ 京都市学校保健会健康教育推進事業健康教育推進校での取組を報告や公開保育を実施し、近隣の就学前施設や小学校へ幼稚園教育を発信する。

	<p>(最終評価に向けた)取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもの学びや育ちについて互いの教育への理解を深める。 ・ 接続期カリキュラムの検証・改善状況 ・ 近隣の保育施設や小学校への発信状況 ・ アンケート「小学校との連携や交流をすることは子どもの育ちにつながっていますか」の前期結果との比較
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>幼稚園教育を発信していくことは大事なことである。子ども同士の交流を後期に向けて計画しているということなので是非取り組んでほしい。</p>

最終評価

	<p>(中間評価時に設定した)各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 京都市学校保健会健康教育推進事業健康教育推進校での幼稚園の取組を近隣の小学校や就学前施設に発信することができた。自園での公開保育や研究報告会に小学校や就学前施設からの参加者があったり、幼稚園から京都市立御所南小学校の研究報告会に参加したりすることができた。また、地域の就学前施設に小学校教員とともに保育参観をすることができ互いに学びあうことができた。 <p>接続期カリキュラムについては、小学校教員と連携して作成することができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ アンケート「小学校との連携や交流をすることは子どもの育ちにつながっていますか」大変そう思う・そう思う回答96%
自己評価	<p>分析(成果と課題), 重点目標の達成状況, 次年度の課題</p> <p>公開保育や公開授業などを通して、幼稚園教員と小学校教員とが互いに学びあうことができたとともに地域の就学前施設への保育参観にも小学校教員とともに参加することができた。特に架け橋プログラム御所南小学校ブロックの取組に参画し、民間保育所・私立幼稚園と連携して、架け橋期のカリキュラムについても小学校教員とともに進めることができた。これからも地域でリードできるように進めていきたい。</p> <p>アンケート結果は前期よりも評価が上がっていた。後期には直接交流することも実現できた。交流することで子どもたちが憧れを抱いたり、期待が膨らんでいることを保護者の方が感じておられる意見が多く見られた。また、先生たちが研修会や小学校訪問などで積極的に小学校の先生たちにかかわっている姿勢を感じるという意見が見られ、保護者の方にも幼稚園教員と小学校教員が学びあっていることが伝わり、子どもの育ちにつながっていると感じていただいているのではないかと思います。</p>
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <p>架け橋プログラムの取組を進める中で、架け橋期だけではなく園全体で組織的に進め学びあっていく。</p> <p>年間の計画を企て進めていきたい。</p>
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>これまでの地域性を活かし積極的に取り組んでほしい。</p>

価	
---	--

(3) 預かり保育に関して

具体的な取組	<ul style="list-style-type: none"> ・ 預かり保育ならではの活動が取り入れられるよう工夫し、参加人数や子どもの実態にあったものにしていく。 ・ 担任と預かり保育担当教員が連絡を密にし、子どもの心身の負担に配慮しながら、保育を進める。 ・ 保護者との連携を密にする。
(取組結果を検証する) 各種指標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 預かり保育での日々の子どもの姿の振り返りと指導計画の見直し ・ 担任や預かり保育担当教員との連携状況や聞き取り ・ 預かり保育の姿からの発信状況 ・ アンケート「預かり保育での遊びを楽しみにしている」

中間評価

各種指標結果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日々の子どもの姿を記録し、振り返りをするとともに計画の見直しに取り組んでいる。 ・ 担任や預かり保育担当教員との連携状況については、日々必要な情報を共有することへの意識が向上している。 ・ 預かり保育の姿からの発信状況については、後期に課題が残る。 ・ アンケート「預かり保育での遊びを楽しみにしている」大変そう思う・そう思う回答 77%
自己評価	分析(成果と課題)
	<p>今年度は、将棋に興味をもつ姿が見られ、新しく取り入れた遊びのひとつである。子どもの興味や関心、時期、季節、参加人数なども考慮して、預かり保育ならではの活動が取り入れられるように日々工夫して進めている。子どもたちは、預かり保育ならではの遊びを楽しみにし、遊びの続きをすることを楽しみにしている姿が増えてきた。また、日々の子どもの姿の振り返りについて、記録をとったり、担当教員同士で話し合い、計画の見直しを行っている。後期に向けても取り組んでいきたい。また、預かり保育からの姿の発信状況については、課題もあり発信の方法や工夫に後期に向けて取り組んでいきたい。</p>
	分析を踏まえた取組の改善
<ul style="list-style-type: none"> ・ 預かり保育からの姿については、発信の方法や工夫に向け改善に取り組んでいきたい。 ・ 引き続き、預かり保育ならではの遊びの工夫に取り組んでいきたい。 	(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標
<ul style="list-style-type: none"> ・ 預かり保育での日々の子どもの姿の振り返りと指導計画の見直し ・ 担任や預かり保育担当教員との連携状況や聞き取り ・ 預かり保育の姿からの発信状況 ・ アンケート「預かり保育での遊びを楽しみにしている」 	学校関係者による意見・支援策
<ul style="list-style-type: none"> ・ 将棋など預かり保育の時間ならではの遊びを取り入れていることで、子どもの興味が広がっているだろう。今後も工夫して行ってほしい。 	

価	
最終評価	
	<p>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 預かり保育での日々の姿を振り返り記録し、担当者で共有しながら明日への保育の見直しをしている。また、担任と預かり保育担当教員との連携については伝達など必要なことを意識的に取り組んでいる。 ・ 預かり保育からの発信状況については、子どもたちの日々の作品を写真で撮影したものを冊子にとじ、園内展で展示することができた。 ・ アンケート「預かり保育での遊びを楽しみにしている」大変そう思う・そう思う回答 74%
自己評価	<p>分析(成果と課題), 重点目標の達成状況, 次年度の課題</p> <p>アンケート結果では、前半と比較して3パーセント下がっているが、大変そう思う回答結果が前期と比較して14%伸びていた。預かり保育ならではの遊びができることやクラス以外の人とのかかわりを楽しみにしていることがアンケート回答から見られた。また、預かり保育で作った子どもの作品を通して、子どもの遊びの興味や様子を知ってもらえることや子どもと保護者とのかかわりにつながっている。今後も預かり保育での遊びの姿の発信を工夫していきたい。</p>
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <p>今後も子どもたちの遊びの興味や時期などにより、遊びや玩具の取り入れ方に工夫をしていく。また、預かり保育での遊びの発信について考えていきたい。</p>
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>預かり保育ならではの楽しみがあるのはよいと思う。引き続き、取り組んでほしい。</p>

(4) 子育ての支援に関して

<p>具体的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 担当教員による教育相談を随時行い、保護者が相談しやすい雰囲気づくりに努める。 ・ 子ども同士のかかわりの場の提供と共に、保護者同士も情報交換や悩みを相談する場となるようにする。 ・ 小規模保育事業所との連携を通して3歳児までの育ちや3歳児に必要な支援を学んだり、幼稚園について発信したりする。 ・ 教育相談実施についての発信を工夫する。
<p>(取組結果を検証する) 各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 未就園児教育相談への参加者の意見 ・ 未就園児教育相談担当者への聞き取り ・ 小規模保育事業所との連携状況 ・ 未就園児教育相談についての発信状況

中間評価

<p>各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 小規模保育事業所との連携では、園庭開放等の交流や情報交換などにも取り組むことができた。保育者間での連携については、保育参観の検討はしていたものの、コロナ禍の状況で実施は難しかった。しか
--

	<p>し、行事の参観や自園の研究報告会への参加などにより幼稚園教育の発信に取り組んだ。</p> <ul style="list-style-type: none"> アンケート「未就園児の教育相談は、地域の子育て支援の場となっている」大変そう思う・そう思う回答 91% 未就園児の教育相談についての発信状況については、地域のお便りやポスターでの発信などに取り組んだ。
自己評価	<p>分析（成果と課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> 小規模保育事業所との連携では、園庭開放などで交流することができた。 未就園児教育相談クラスでは担当者とのつながりや参加者同士のつながりも見られるようになってきつつある。また、参加者からは地域に遊びに行ける場がありありがたいという意見が聞かれていた。園の行事などの都合で開催できない日もあるので、できるだけ開催できるように園の予定と調整していきたい。また、保護者が子どもの育ちや子育てについて幼児期にどんなことが必要か、大事なことかなどを知ったり考えたり学べる場や機会を設け、内容についても工夫していきたい。 <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> できるだけ定期開催できるよう予定を調整し、保護者同士の情報交換や悩みを相談できる場となるよう保護者同士を繋げたり、担当教員との相談しやすい雰囲気づくりに引き続き取り組み地域の子育て支援センターの場となるように取組んでいきたい。また、保護者が子育て経験者の意見を聞ける場や幼児期の育ちで重要なことはどんなことかを学べる機会を設けたり、未就園児教育相談の中でも取り組んでいく。 <p>（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 未就園児教育相談への参加者の意見 未就園児教育相談担当者への聞き取り 小規模保育事業所との連携状況 未就園児教育相談についての発信状況
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> 幼稚園は、子どもの発達にあった教育内容に取り組んでいる。子育て支援について、幼児期の発達や幼稚園教育の発信の工夫が重要である。乳幼児期の発達時期は、重要な時期である。子どもの育ちのために何が重要であるのか、未就園児の教育相談の中でも、日々の子どもの発達や育ちについて知ったり考えたりできる場や機会を設け子育てをする上で、親自身も子どもとともに育っていけるよう取組んでほしいと願う。

最終評価

	<p>（中間評価時に設定した）各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> 未就園児の教育相談については、利用者は同年齢児をもつ保護者や子どもと出会え、情報交換や相談できる場があり利用してよかったなどの意見が聞かれたが、一方で、利用したことがない、わからないなどの意見も多く見られた。 発信状況については、ポスターや地域へのチラシの配布、ホームページなどに取り組んだ。 小規模施設との連携については次年度に課題が残った。
自己評価	<p>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <p>未就園児の教育相談については、ポスターやチラシ、ホームページでの発信に取り組んでいるが、新規で未就園児の教育相談に来られる方の中には、参加者や知り合いからの紹介で来られる方も多く見られた。地域の子育て支援センターの場となるよう定期開催に取り組んでいきたい。</p>

	<p>小規模施設との連携については、自園で開催した京都市学校保健会健康教育推進事業研究教育推進校の研究報告会への案内を発信することができ、小規模施設からの参加も見られた。また、保育見学の予定はしていたが実現まではできなかった。次年度に課題として残った。</p>
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <p>次年度は、コロナ禍でできなかった保護者の方や地域の方とも連携して未就園児の教育相談を進め、地域の子育て支援センターの場となるように取り組んでいきたい。</p> <p>小規模施設との連携について次年度は年度当初に具体的に計画を企てていきたい。</p>
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>未就園児の教育相談という文言よりも、気軽に遊びに行けるような誰でもわかりやすい文言や雰囲気表現にしてみたり、周知のチラシを際立たせるようなデザインにするなどの工夫が必要。</p> <p>また、園の教職員だけではなく、先輩保護者の方が参加して気軽に幼稚園のことを聞けるような取組もよいのではないかと。親と学校をつなぐ役割の存在など考えていけたらよいのではないかと。そして、乳幼児期に親子で一緒に育つことは、家庭教育の質につながっていくことの意味や大切さを発信していきたい。</p>

(5) 地域とのかかわり（社会に開かれた教育課程）に関して

<p>具体的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 幼稚園便り・学級便り・HP の活用による幼稚園教育の発信を行う。 ・ 学校運営協議会（もえぎティンクル）による幼稚園教育への参画の充実を行う。 ・ 学校運営協議会（もえぎティンクル）による学校関係者評価を行い、取組の改善策を探っていく。
<p>（取組結果を検証する）各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 幼稚園教育の発信状況 ・ 学校運営協議会による幼稚園教育への参画状況と取組の発信状況 ・ 学校運営協議会による学校関係者評価からの意見や改善状況 ・ アンケート「学校運営協議会（もえぎティンクル）の活動は、幼稚園の経営を豊かにしていますか」

中間評価

	<p>各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 幼稚園教育の発信については、幼稚園だよりなどで発信をすることができた。また、行事への参観が可能な状況になり、運営協議会の方に子どもの姿も見ていただくことができた。 ・ 学校運営協議会もえぎティンクルの活動の一つである絵本の読み聞かせボランティアを行うことができた。後期に向けては、5 歳児のお茶会を計画している。 ・ アンケート「学校運営協議会（もえぎティンクル）の活動は、幼稚園の経営を豊かにしていますか」大変そう思う・そう思う回答 84%
自己評価	<p>分析（成果と課題）</p> <p>幼稚園便りやホームページの活用などにより幼稚園教育の発信に取り組んだ。また、学校運営協議会による学校関係者評価については、行事への参観や対面での開催が可能な状況になり、子どもの姿を通して意見をいただくことができた。</p> <p>保護者アンケート結果の意見からは、地域のみなさんがとても温かく見守ってくださっている。絵本の読み聞かせボランティアの活動では、子どもたちの情操教育や沢山の物語にふれる時間をつくってくだ</p>

	<p>さっている。学校運営協議会があることで様々な意見を取り入れられたり、子どもたちのための活動の幅が広がったりすると思うなどの意見が聞かれ、学校運営協議会（もえぎティンクル）の方の参画による充実を感じておられることがよみとれた。一方で、活動についてよく理解できていないという意見もみられ学校運営協議会もえぎティンクルの周知や活動内容の発信の工夫に取り組んでいきたい。</p>
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域への幼稚園教育の発信については取り組んでいるが、より効果的な工夫に取り組んでいきたい。 ・ 保護者のアンケートの中には、学校運営協議会もえぎティンクルの活動をあまり把握していないという意見もみられた。学校運営協議会もえぎティンクルだよりの作成などにより運営協議会の活動への周知や発信の工夫に取り組んでいきたい。
	<p>（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 幼稚園教育の発信状況 ・ 学校運営協議会による幼稚園教育への参画状況と取組の発信状況 ・ 学校運営協議会による学校関係者評価からの意見や改善状況 ・ アンケート「学校運営協議会（もえぎティンクル）の活動は、幼稚園の経営を豊かにしていますか」
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>子育て経験者として、幼児期の教育の大切さを実感している。幼稚園教育の参画や地域の子育て支援に是非協力したい。</p>

最終評価

	<p>（中間評価時に設定した）各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 幼稚園教育の発信については、幼稚園だよりなどで地域に発信をすることができた。 ・ 学校運営協議会もえぎティンクルの活動では、後期も絵本の読み聞かせボランティアを行うことができた。また、5 歳児のお茶会体験については親子でのお茶会体験も行うことができた。 ・ アンケート「学校運営協議会（もえぎティンクル）の活動は、幼稚園の経営を豊かにしていますか」大変そう思う・そう思う回答 93%
自己評価	<p>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <p>後期のアンケート結果から「学校運営協議会もえぎティンクルの活動は、幼稚園の経営を豊かにしていますか」の結果が上がっていた。絵本の読み聞かせボランティアの活動では、いろいろな方に読んでいただける機会があることや子どもたちが楽しみにしているなどの意見をいただいた。また、親子お茶会体験では今年度は保護者の方も実際に体験され貴重な体験であるなどの意見をいただいた。学校運営協議会もえぎティンクルの活動が保護者の方々にも認知されてきたことが結果につながっているのではないかと思います。</p>
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <p>学校運営協議会もえぎティンクルの活動や取組を今後も発信し、地域、保護者とともに幼稚園教育がより豊かになるように考えていきたい。同時に園の教育活動についても発信していきたい。</p>

学 校 関 係 者 評 価	学校関係者による意見・支援策
	来年度は、できるところからぜひ参画していきたい。子育て支援については、地域でも協力して乳幼児期だからこそ大切にしたいことや親子で育つことの大切さを幼稚園とともに発信していきたい。

(6) 教職員の働き方改革について

重点目標
<ul style="list-style-type: none"> ICT 機器の効率的な活用による業務の軽減 組織的な園運営と勤務時間への意識改革
具体的な取組
<ul style="list-style-type: none"> ICT を活用したアンケート回答や弁当注文集計など 一人一人が自身の超過勤務時間の把握をし勤務時間に対する意識を高め、計画的な業務改善を目指し、超過勤務時間の短縮や年休取得につなげる。
(取組結果を検証する) 各種指標
<ul style="list-style-type: none"> ICT の活用状況 超過勤務時間や年休取得状況

中間評価

自 己 評 価	各種指標結果
	<ul style="list-style-type: none"> ICT 機器の導入により保育や研修、事務での活用が進んでいる 年休取得においては、夏季休業中の年休取得をしやすいよう園内の予定を調整し取得しやすい環境を整えるように努めた。超過勤務時間については、引き続き削減に取り組んでいきたい。
	分析(成果と課題)
	<p>ICT 機器の導入により、機器操作や扱いなど教職員のスキルアップの研修機会を設けたり、参加しやすくなることができた。また、連絡アプリの導入により、効率的な活用による業務改善に向け試行改善しているところである。</p> <p>年休取得や超過勤務時間については、今後も園組織で取り組んでいく。</p>
	分析を踏まえた取組の改善
(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標	<p>ICT 機器の導入による効率的な活用のためのスキルの向上や連絡アプリの試行改善から効率的な活用を探り改善に向けて取り組んでいきたい。</p> <p>年休取得については、取得しやすい環境づくりに取り組んでいるが引き続き取り組んでいきたい。また、超過勤務については、勤務時間への意識を高め、長期・中期の見通しをもちながら計画的に日々の業務に取り組めるようにしていきたい。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ICT の活用状況 超過勤務時間や年休取得状況

学校関係者評価	<div>学校関係者による意見・支援策</div> <p>アプリの導入により、保護者も便利になっている。ICT 機器を活用し、今後も効率的に働き方改革を進めてほしい。</p>
---------	---

最終評価

<div>(中間評価時に設定した)各種指標結果</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 連絡アプリの導入により事務での活用が進んできている。 ・ 長時間勤務については個々の意識も高まり、年間を通して昨年度より減少している。 	
自己評価	<div>分析(成果と課題), 重点目標の達成状況, 次年度の課題</div> <p>連絡アプリの導入で効率的に業務を改善できていることと, 初めての取組で操作や必要な準備など不慣れで時間が必要な部分と両面あった。また、次年度は今年度の経験を活かし効率的な改善や教職員間の伝達に向けて取り組んでいきたい。</p> <p>超過勤務時間については、昨年度よりも減少している。今後も継続して取り組んでいきたい。</p>
	<div>分析を踏まえた取組の改善</div> <p>連絡アプリ等 ICT 機器を利用して業務の改善に取り組んでいけるよう、ICT 機器の操作スキルをつけ教職員間で伝達していく。</p> <p>超過勤務時間については、昨年度よりも減少しているが、今後も一人一人が意識をもち、組織的にとりくんでいく。</p>
学校関係者評価	<div>学校関係者による意見・支援策</div> <p>引き続き取り組んでいってほしい。</p>